

新型コロナウイルス感染予防対策について

新型コロナウイルスの感染者数は多少減少てきていますが、高齢者への感染は増えるなど、依然として警戒しなければならない状況です。

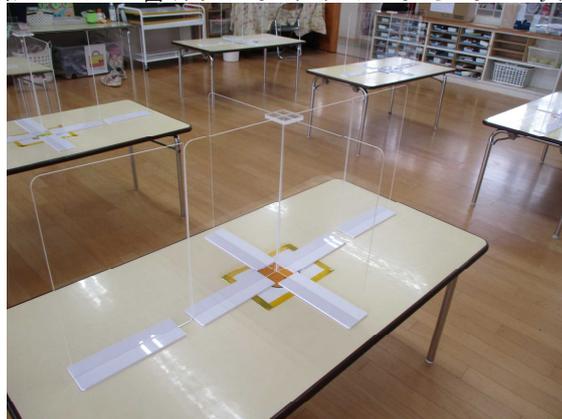
次亜塩素酸空間 除菌脱臭機



空気をきれいに



空気清浄機



パーティションを設置



明和児童クラブで行っている新型コロナウイルス感染予防のための対策のいくつかを紹介させていただきます。



非接触型検知器

※お迎え時にご活用ください

避難訓練を実施しました

今年度3回目の避難訓練を、1月29日(金)に実施しました。今回は、火災に備えての避難訓練でした。16時45分に火災が発生したことを想定して避難しましたが、「お・は・し・も」(押さない、走らない、しゃべらない、戻らない)の約束



【一生懸命に避難しました】

を守ってほとんどの児童がしっかりと整列までできました。



【間を空けて整列】

【連絡】 春休みの利用申し込み関係書類を配付します

本日（2月15日）から、春休みの利用申し込み関係の書類を配付します。（※新1年生は、3月に配付予定です）春休みは、年度をまたぐため、利用料金等についても、やや分かりにくくなっていますので、ご確認ください。

春休みの**利用申し込みの締め切りは2月25日（金）**になっていますので、期日厳守でお願いいたします。なお、利用予定表は3月分もいっしょになっています。そのため、**通年会員の皆様は提出が必ず必要**ですので、よろしくお願ひします。

（文責＝鷲頭）

子育てのあれこれ No.10

学校に勤めていたときに、よく聞かれたことのひとつが、「勉強ができるようになるには、どんな子育てをしたらいいのですか？」ということでした。

そこで今回は、「**よい学業成績につながる子育て**」について、紹介させていただきます。

学業成績向上につながる子育てには諸説があり、それに関する書籍も数多く出版されています。そんな中で、教育心理学では、「がまんする力」が学業成績の善し悪しを左右するといった古典的な定説があるので、それを紹介します。その基になっているのが、アメリカのミッシェルという心理学者が行った調査で、日本では新井邦二郎氏などによって紹介されていますが、その概要は次のとおりです。

- ・ 4歳の子どもたちの**がまん強さをマシュマロを使って測り**、その子たちが**高校を卒業するまで、追跡調査**を行った。
- ・ 調査の結果では、がまん強い子の方が、学習面、人間関係面、精神面のどれをとっても、健全な成長をしていた。
- ・ **特に顕著だったのは、「大学進学適性試験」（学力試験）の結果が、がまん強い子の方が際だってよく、それは知能検査結果との関係よりも顕著**であった。

このようなことから、日本でも多くの学者が「セルフ・コントロール」（がまん）の大切さを主張していますが、ある学者が次のように言っていたのを聞いたことがあります。「勉強が本当に好きな人は比率から言えばほんのわずかであり、その人たちは、止めると言っても勉強をし続ける人たちだ。しかし、それ以外のほとんどの人は、やむを得ず勉強しているので、どのぐらいがまんして勉強できるかが、学業成績を左右する。」

勉強が特別に好きなわけではない私にとっては、すごく納得できる話ですが、保護者の皆様方にとってはいかがでしょうか？「勉強が好きで好きでしようがない」といった子以外にとっては、やはり、**勉強ができるようになるためには「がまんする力を育てる」ことが大切**なようです。そして、ミッシェルが4歳児から調査を始めたのは、「がまんする力」の発達のピークが4歳ぐらいまでであることを意味しています。

それでは、小学生は手遅れでしょうか？いや、そんなことはありません。発達心理学者によると、小学校入学前の家庭でのしつけは大切ですが、**小学校3・4年生も「セルフ・コントロールの内的統制**（自分から進んでがまんできるようになること）**に移行する時期**で、それは、5・6年生まで続きます。学業成績がすべてではないと考えますが、せめて宿題ぐらいには取り組めるように、「がまんする力」をご家庭と連携しながら、ぜひ子どもたちにつけていきたいと思うのです。

* 参考文献 「甘やかされている子の学習態度」「図でわかる学習と発達の心理学（新井邦二郎）、「子どもの発達とつまずき」（高野清純）他

